

## ココナッツ・アイランド——サムイ島 ポーティアス 郷子 (タイ)

タイのサムイ島では、自然を満喫する一方、不慣れな生き物にも囲まれて暮らしております。現在の借家は、海のそばというよりは、むしろジャングルの中といったほうがよいくらい草木に覆われております。夜はとても静かで、恐ろしげな虫や動物の声にも耳慣れてきたとはいえ、今でも時々ドスンと何かとても重たい物体が空から落ちてきた音で目を覚ますことがあります。犯人はココナッツの実です。ココナッツの殻はとても硬いうえ、サッカーボールくらいの大きさのものが20メートル程の高さから落ちてくるわけですから、かなりの衝撃です。ポストカードなどで見る青い海と椰子のイメージは大変美しいものですが、実際は上をよく見てからビーチの場所取りをしないと命とりになりかねません。風が強い日には、道路にも割れて砕けたココナッツの残骸をよく見かけます。落ちた瞬間に下にいなくてよかった、とほっとします。大きく育って少々古く変色したココナッツはいつ落ちてくるともわかりませんが、人間が登って取るには高さに限界があります。

そこで、危険なココナッツを取るためにがんばってくれている働き者がいます。お猿さんたちです。正確には、ココナッツ取りの業者が猿を仕込んで、木に登らせて、働かせているのです。猿たちは、落ちそうな実だけを器用に取って、地上に落とします。採集された大量のココナッツの実は、その後市場に売られ、食材や燃料にされます。かつて10年くらい、ココナッツの値段はかなり安かったらしいですが、昨今の石油価格の変動で、ココナッツの値も上昇したようです。最近話題のバイオ燃料に使ったり、いろいろと需要があるからです。よって、石油価格が上昇すると、ココナッツ取りの猿たちもひんぱんにやってきて働いているようです。私の家の周辺は、猿たちに働いてもらう代わりに、取ったココナッツは収穫として持って帰ってもいいと、以前から地主と話がついているらしいです。双方にとって得な話で、資源活用にもなっています。動物愛護の立場からすれば、縄でつながれて働く猿はかわいそうですが、猿にしかできない仕事をしてもらっていると感謝しております。

日常の庭の手入れや周辺の道路の掃除は、いつもラオスから出稼ぎにきている労働者たちがしています。彼らの暮らしは裕福とはいえず、中には学校にも行けず家族の手伝いをしている子供もいます。彼らは、自然に落ちたココナッツを拾い集め、中の実を取り出し天日で乾燥させます。そうすることによって腐らずに保存することができるからです。そして、ココナッツの市場価格が高くなったときにまとめて売るそうです。ちょっとした副収入です。サムイ島には今も、それだけで生計を立てている住民もまだまだいるようです。



写真1：木登りは得意、現在工作中



写真2：仕事を終え、帰宅準備中



写真3：猿が落したココナッツをトラックに収穫中